

## 令和2年度の重点取組、重点施策の外部評価の手順について

### 1 概要

静岡県立中央図書館中期計画 2018-2021 に基づく令和元年度の重点取組（館全体としての取組）及び各班毎の重点施策に対する取組内容や実績等に対して、図書館協議会委員による外部評価を行う。

### 2 手順

- (1) 重点取組、重点施策に対して、図書館が自己評価を実施
- (2) 協議会当日、図書館が、取組内容や実績及び自己評価を説明
- (3) 協議会当日、委員は、取組内容や実績について協議をし、評価を決定
- (4) 図書館は、評価結果を公表

### 3 評価の基準

評価	基準
A	目標の達成や施策・事業の展開がよくできた
B	目標の達成や施策・事業の展開がある程度できた
C	目標の達成や施策・事業の展開があまりできなかった
D	目標の達成や施策・事業の展開がほとんどできなかった

令和2年度  
静岡県立中央図書館  
重点取組・重点施策  
評価書

「新型コロナウイルス感染症」は、「コロナ」に略しています。

令和2年度重点取組評価書	
主担当：企画振興課（企画班）	
(1) 新たな県立中央図書館整備への対応	
<ul style="list-style-type: none"> <li>新たな県立中央図書館整備に向けて、社会教育課等と連携し、基本計画及び管理運営計画に基づき、新館建設に関わる作業を進めます。職員間で様々な情報を共有して、新館づくりに積極的に関わり、多くの人が心から待ち望む県立図書館づくりに取り組みます。</li> </ul>	
自己評価	(内容)
A・B・C・D	<ul style="list-style-type: none"> <li>新館整備に向けて社会教育課と連携した情報共有のための研修を4回実施した。(職員全員参加)</li> <li>社会教育課からの要請に応じて4つのテーマのワーキングを延べ16回実施した。(今年度から発令された社会教育課兼務職員7名が参加)【1月末時点】</li> <li>館内の意見調整・意思決定を行なう館内代表者による新館検討WGを1回実施した。</li> </ul>
外部評価	(御意見等)
A・B・C・D	
令和2年度重点取組評価書	
主担当：総務課	
(2) 現有施設における最良のサービス展開	
<ul style="list-style-type: none"> <li>施設面・システム等を含め安全・安心な環境整備に配慮します。</li> <li>現有施設において、新館を見据えつつ、入館者数や貸出数等も意識し、利用者が満足できる各種サービスの改善・向上に取り組みます。</li> </ul>	
自己評価	(内容)
A・B・C・D	<ul style="list-style-type: none"> <li>コロナ予防対策として、利用者及び職員の安全のために、必要な消耗品(アルコール消毒液、使い捨てマスク、使い捨て手袋)等や備品(サーマルカメラ、非接触型体温計)を速やかに購入し環境整備に対応した。</li> <li>子どもコーナーのオープンに必要な備品の購入、安全な環境整備について予算内で可能な範囲で対応した。</li> <li>令和3年1月の蔵書点検でインフォメーションホールの見直し、閲覧室内のサインの見直しを行った。</li> </ul>
外部評価	(御意見等)
A・B・C・D	

令和2年度重点取組評価書	
主担当：企画振興課（企画班）	
(3) 職員の資質向上	
<ul style="list-style-type: none"> <li>県立図書館職員としての専門性を高め、力量を向上させるため、館内研修の実施及び外部研修への積極的な参加を組織的・計画的に行うとともに、研修報告会や館内・館外研修・講座の講師を務めることで、その成果の普及を図ります。</li> </ul>	
自己評価	(内容)
A・B・C・D	<ul style="list-style-type: none"> <li>コロナ禍の中、中止となった研修を除き、著作権実務講習会、障害者サービス講座等、職員の資質向上につなげる外部研修に3研修に延7日間参加した。</li> <li>新館への情報収集を行なうため、オンライン配信の全国図書館大会や図書館総合展等に各職員が積極的に参加した。図書館総合展では、出展者としても参加し、職員の力量を向上させた。</li> <li>県外視察報告や上記研修の伝達講習を館内研修で実施した。</li> <li>レファレンス出前研修5回、子ども図書研究室講師派遣5回、新刊サロン(Web)4回、レファレンス基礎研修、応用研修(Web)等の講師を務めた。</li> </ul>
外部評価	(御意見等)
A・B・C・D	
令和2年度重点取組評価書	
主担当：企画振興課	
(4) 県域全体への広報とサービス向上	
<ul style="list-style-type: none"> <li>当館が県域全体で多くの県民に活用されるよう、県教育委員会や知事部局との連携や支援に努めるとともに、レファレンスサービスや市町立図書館を通じての資料提供などを積極的に広報し、認知度の向上を図ります。</li> <li>県域サービスの拡充のため、協力貸出及びインターネット予約貸出等において市町立図書館等とさらなる連携に努めるとともに、県域サービスの充実に向けての、今後の方向性を検討します。</li> </ul>	
自己評価	(内容)
A・B・C・D	<ul style="list-style-type: none"> <li>知事部局と連携し、海洋プラスチックごみ防止(廃棄物リサイクル課)、犯罪被害者週間(交通安全課)、百済展(地域外交課)等の展示を実施した。</li> <li>令和2年12月からインターネット予約貸出の市町立図書館受取館を11館から14館へ3館追加しサービスを拡大した。</li> <li>システム更新に伴いホームページを令和2年4月末にリニューアルした。</li> </ul>
外部評価	(御意見等)
A・B・C・D	

令和2年度重点取組評価書	
主担当：企画振興課	
(5) 県内図書館のさらなる活性化への寄与	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・県内図書館職員の資質向上のため、研修内容を充実させ、演習・グループワーク形式を活用するなど運営手法も工夫して職員研修の充実を図ります。また、研修に参加できなかった県内図書館職員に対しても、可能な限り研修の資料等を提供し、情報の共有を図ります。</li> <li>・市町立図書館の課題解決を支援する要請訪問を実施するとともに、市町立図書館への情報提供の充実を図ります。</li> <li>・県内図書館の振興のため、県図書館協会と連携し、各図書館が協力し合い、本県の図書館活動がさらに活発化するようリードします。</li> </ul>	
自己評価	(内容) <ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナのため、Webによるオンライン研修が可能な県内図書館研修13件(内8件は関東甲信越静地区研修)を実施し、延べ588人が受講した。Youtubeによる動画配信方式で実施し、受講者アンケートの結果、有益度4.61、理解度4.31(5段階評価で基準は3)と好評を博した。</li> <li>・清水町立図書館(7/15新館開館)に対しては2回(4/3,5/18)訪問し、引っ越しやコロナ対策などに関する運営相談に対応した。また、7/10に清水町図書館運営委員会に委員として出席し、3/11には新設する清水町図書館協議会委員へ就任予定である。</li> <li>・令和3年4月リノベーション施設に移転開館する牧之原市立相良図書館に対しては、協力車訪問だけでなく要請訪問(11/13,2/4)や電話でも移転や新館のサービス等の運営相談に対応した。</li> <li>・新築移転構想のある御殿場市に対しては、市立図書館等基本構想策定懇話会の委員として館長が会議に出席し、助言を行った。</li> <li>・令和2年3月から緊急事態宣言が明けた5月中旬までは、週2～3回程度市町立図書館の情報を収集し、おうだんくんシステムを通じて発信した。市町立図書館からは、県立に問合せなくても県内の情報が入手できると大変好評だった。</li> </ul>
外部評価	(御意見等)
A・B・C・D	

令和2年度重点取組評価書	
主担当：調査課（一般調査班）	
(6) レファレンス・課題解決支援サービスの充実	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員がレファレンス技術の向上に努め、組織全体のスキルを高めることで、レファレンスサービスの充実を図ります。また、レファレンス、講座や研修を通じて、県民、県内図書館職員、教職員等に、オンラインデータベース等、多様な情報ツールの活用を促進し、課題解決支援サービスを充実します。</li> </ul>	
自己評価	(内容) <ul style="list-style-type: none"> <li>・職員が積極的にレファレンス技術取得に向け、国立国会図書館レファレンスサービス研修等受講し自己研鑽に励んだ。</li> <li>・コロナのため、県総合教育センターで教員対象の著作権研修は中止となった。県内公共図書館職員向け研修は動画配信に変更したことで、より多くの職員に研修を行えたことが高評価であった。出前研修は希望図書館の5館(うち1館はWeb)で実施することで、互いに研鑽する機会となった。また、県民向けのオンラインデータベース活用講座は予定通り行い、好評であった。</li> </ul>
A・B・C・D	
外部評価	(御意見等)
A・B・C・D	

令和2年度重点取組評価書	
主担当：調査課（地域調査班）	
(7) 地域資料等の充実とデジタル化	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域資料の網羅的収集により積極的に努めます。</li> <li>・地域資料、貴重書等のデジタル化を推進し(ふじのくにアーカイブの充実)、それら資料の利活用の促進に努めます。</li> </ul>	
自己評価	(内容) <ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度から収集を始めた、静岡県出身者による静岡県が舞台の漫画について、今年度も引き続き該当資料の調査及び保存用資料の収集を行った。</li> <li>・『宮田日記』等の91件約3,320コマ(3月見込み)をデジタル化し公開した。</li> </ul>
A・B・C・D	
外部評価	(御意見等)
A・B・C・D	

令和2年度重点取組評価書	
主担当：資料課（図書班）	
<p>(8) 子ども図書研究室の活用推進（子どもの読書活動の推進への寄与）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの読書活動を支える方々をはじめ多くの利用者に研究室の資料が有効利用されるように、資料の市町立図書館貸出、研究室の団体利用の促進、選定資料リストの公開、日曜開放の推進等に努めます。</li> <li>・児童書関連の講演会、新刊サロン、新刊児童図書巡回展示研修会の充実を図るとともに児童サービスの講師派遣事業に取り組みます。</li> </ul>	
自己評価	(内容)
A・B・C・D	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童資料の全点を収集し、『子ども図書研究室だより』（年4回発行）、選定資料リスト(ホームページ掲載)等の情報提供をした。</li> <li>・研究室は10月から日曜日午後に会計年度任用職員が在室し、案内ツアー(15分程度)を実施した。</li> <li>・講演会はコロナの影響で、実施を6月から10月に延期した後、動画配信で行った。(再生回数720回)</li> <li>・新刊サロンは4回動画配信で実施し、概ね好評であった。第5回も動画配信で今後実施予定である。</li> <li>・巡回展示は東部、中部の2か所で、外部講師による講座を中止し、短時間で開催した。</li> <li>・講師派遣は6団体を予定したが、うち1回は動画配信の形で実施し、1回はコロナのため中止となった。</li> </ul>
外部評価	(御意見等)
A・B・C・D	

令和2年度重点取組評価書	
主担当：資料課	
<p>(9) えほんのひろばの本館移転による児童コーナー（仮称）開設</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・えほんのひろば本館移転による児童コーナー（仮称）の開設について、サービスを具体化し、計画的に取り組みます。</li> </ul>	
自己評価	(内容)
A・B・C・D	<ul style="list-style-type: none"> <li>・9月にグランシップの「えほんのひろば」を閉室し、10月1日から本館に子どもコーナーを正式にオープンした。</li> <li>・日曜日限定でプレオープンした5月から準備を進め、名称も公募し投票を行い「どんぐりひろば」に決定した。(総投票数223票)</li> <li>・旧学習コーナーを改装した小さなコーナーであるが、日を追って利用が定着している。(5月～12月の入室人数/児童資料貸出冊数：2,340人/5,285冊)</li> </ul>
外部評価	(御意見等)
A・B・C・D	

令和2年度重点取組評価書	
主担当：資料課	
<p>(10) 専門書を中心とする資料収集</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・資料費予算の確保に努めるとともに、市町立図書館との役割分担を考慮し、計画的かつ精選した資料収集に努め、その予算を有効に執行します。</li> </ul>	
自己評価	(内容)
A・B・C・D	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図書購入費は昨年度に比較して、デジタル化等に対応するため約250万円程度減額せざるを得なかったが、専門書を中心に全分野で可能な限り収集した。</li> <li>・市町立図書館からの購入リクエストは、106件受付し101件を購入した。3つの基本方針のひとつである「市町立図書館のための図書館」としての機能を果たした。</li> </ul>
外部評価	(御意見等)
A・B・C・D	

令和2年度重点取組評価書	
主担当：調査課	
<p>(11) 資料保存と資料管理</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・未来の県民のために資料を着実に保存します。また、資料の修復や媒体変換（デジタル化等）にも取り組むとともに、館外保管している資料の維持管理にも配慮します。</li> </ul>	
自己評価	(内容)
A・B・C・D	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料の保存と利活用のため、久能文庫資料96タイトルについて、デジタル化、マイクロフィルム化を行った。また、デジタル化した貴重資料について損傷状況を調査し、計画的に修復を計画し、今年度は損傷の激しい葵文庫資料13タイトルの修理を行った。</li> <li>・マイクロフィルムの管理では、保存ケース内のシリカゲル・ゼネライトの交換や、マイクロフィルムの放酸処理を行った。</li> <li>・外部保管している資料については、定期的に見回りを行った。特に夏季は毎日除湿作業を行い、少しでも良好な保管状況となるように配慮した。</li> </ul>
外部評価	(御意見等)
A・B・C・D	

令和 2 年度重点取組評価書	
主担当：企画振興課（企画班）	
(12) 特色ある展示・企画等の実施、葵レク（図書館講座）の充実	
<p>・外部機関・団体と積極的に連携し特色ある展示を行います。また、団体・個人を問わず、図書館や活字文化の振興を支えてくださる方々と力を合わせて、幅広い分野で協働できるよう努めます。</p>	
自己評価	(内容)
A・B・C・D	<ul style="list-style-type: none"> <li>・静岡大学等との連携展示を計 16 回実施した。(展示室 6 回、インフォメーションホール 5 回、閲覧室 5 回)</li> <li>・コロナ禍の中、Zoom や公式 YouTube チャンネルを活用した Web 配信により、貴重書講座、子ども図書研究室講演会、新刊サロン等を実施した。</li> </ul>
外部評価	(御意見等)
A・B・C・D	
令和 2 年度重点取組評価書	
主担当：調査課（歴史文化情報センター）	
(13) 県史編さん収集資料の整理及び公開	
<p>・県史編さん収集資料目録の作成及びデータベース化、「静岡県史」の検索システムへの入力などに計画的に取り組み、公開に向けた作業を進めます。</p>	
自己評価	(内容)
A・B・C・D	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県史情報と県史収集資料目録を 174 件作成した。</li> <li>・インターネット目録公開資料の許可を 306 件得た。(そのうち、42 件の画像公開承諾を得た。)</li> </ul>
外部評価	(御意見等)
A・B・C・D	

※「新型コロナウイルス感染症」は、「コロナ」に略しています。

令和2年度重点施策調書	
(総務)課 (総務)班	
中期計画の位置付け	1-3 あらゆる関心層の県民に図書館をアピールします
館の重点取組	(2) 現有施設における最良のサービス展開
参考：事業体系の位置付け	閲覧室の良好な読書環境の維持
重点施策・事業名	<b>利用者が安心して安全に利用できる環境の整備</b>
現状・課題	・建築から50年経過した施設であるため老朽化による不備が著しく、配管類の故障や空調の不具合が頻繁に発生する。その都度、必要最低限の修繕を行っているが移転等が検討されている中で抜本的な改修は望めない。
施策の目的・内容・方向性・計画等	・利用者の安全を第一に考え、危険箇所の減少に努める。児童コーナーが新設（グランシップから移設）されるため、児童等の利用者も安全に利用できる環境を整備する。 ・修繕工事等を行う場合には、情報をできるだけ早く周知する。
達成目標 (期待される効果)	・来館者、職員の安心安全な環境の提供 ・施設設備の不具合による事故の件数0件を目指す。
備考	

令和2年度重点施策評価書	
総務課 総務班	
自己評価	(目標に対する実績) ・子どもコーナーが新設され、小さな子どもや親子連れの来館者が増加したが、施設設備の不良による事故の報告は無かった。 ・講堂前の窓への網戸取り付けや、閲覧室机下の間仕切り取り付け等、利用者の安心安全な環境確保のための修繕を行った。また、消火水槽排水管修繕や閲覧室分電盤ブレーカー取替え、機械室ボイラー修繕等、修繕の必要な箇所について、予算の範囲内でできる限りの対応を速やかに行った。 ・修繕工事については、できる限り休館日に行うように配慮したが、やむを得ず開館日に行う場合は、利用者へ掲示等でお知らせをし、職員間でも情報を共有した。
Ⓐ・B・C・D	(今後の方向性・分析等) ・今後も、老朽化による施設の不具合が出ることは予想されるが、予算の範囲内で、その都度、利用者・職員の安全を最優先に対応していく。
外部評価	(御意見等)
A・B・C・D	

令和2年度重点施策調書	
(企画振興) 課 (企画) 班	
中期計画の位置付け	新館の検討
館の重点取組	(1) 新たな県立中央図書館整備への対応
参考：事業体系の位置付け	新館整備の検討
重点施策・事業名	<b>新県立図書館の管理・運営計画の策定</b>
現 状 ・ 課 題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新図書館の計画について、H29に基本構想が、H30に基本計画が策定し、R1には管理・運営計画が検討された。</li> <li>・一方で、知事部局所管「文化力の拠点」は、議会の理解が得られず白紙撤回となった。</li> <li>・このため、従前は「文化力の拠点」の計画の中に図書館の管理・運営計画を反映させる形だったが、新図書館単体で計画を進める形に方向転換することとなった。</li> </ul>
施策の目的・内容・方向性・計画等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新県立図書館単独整備に向けて、基本構想・基本計画に基づき、管理運営計画の策定支援を社会教育課に対して十分に行うことが重要なミッションになる。</li> <li>・社会教育課とともに、県議会とも良い関係を築きながら、県全体が、同じビジョンを描いて、そこに向かって進んでいけるようにする。</li> </ul>
達成目標 (期待される効果)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新館に与えられた条件の中で、最善の図書館サービスが行えるよう、図書館職員の知恵や工夫を活かした管理運営計画の策定支援をする。</li> <li>・県及び県民全体の合意形成を積み重ねて策定した基本構想・基本計画を踏まえた、多くの人が待ち望む図書館づくり。</li> </ul>
備 考	

令和2年度重点施策評価書	
企画振興課 企画班	
自己評価	(目標に対する実績) <ul style="list-style-type: none"> <li>・新県立図書館単独整備に向けて、新館基本計画の教育委員会版への改定、整備計画の策定、「新しい県立図書館」アイデアコンペの実施等を社会教育課に対して支援した。</li> <li>・当館の社会教育課兼務職員が中心となり、新館に関するワーキングや検討会議を4テーマ延べ16回実施し、積極的な提案を行った。</li> <li>・館内全体研修4回と館内の意見調整・意思決定を行なう館内代表者による新館検討WGを1回実施した。</li> <li>・コロナ禍の中、他県の先進図書館への視察調査は実現できないことが多かったが、ふじのくに県民クラブ随行などで、こどもの本の森(大阪府)、山梨県立図書館、県立長野図書館を視察した。</li> </ul>
Ⓐ・B・C・D	(今後の方向性・分析等) <ul style="list-style-type: none"> <li>・新県立図書館単独整備計画について、コロナ禍のため先行き不透明ではあるが、年度末までに策定するよう進めている。引き続き、県立図書館の存在の意義や必要性和図書館の老朽化を訴え、早期の移転新築が行なわれるよう調整していく。</li> <li>・県民に役立つ図書館を目指して図書館の意向が適切に反映されるよう、アフターコロナ時代のDX化も踏まえて、より具体的なフェーズを積極的に支援していく。</li> </ul>
外部評価	(御意見等)
A・B・C・D	



令和2年度重点施策調書	
(企画振興)課(企画)班	
中期計画の位置付け	1 県立図書館ならではの資料とサービスを通じて、すべての県民の「知る」「学ぶ」を支えます
館の重点取組	(4) 県域全体への広報とサービス向上
参考：事業体系の位置付け	サービスの充実
重点施策・事業名	<b>新たな広報手段の充実に向けた方策推進</b>
現 状 ・ 課 題	現状 ・広報について、様々な紙媒体及びホームページへの掲載を中心に行っている。 課題 ・広報について、昨今のSNS等新たな広報手段に伸びしろがあるが、持続的かつ効果的に活用されている事例は少なく、独自の創意工夫や試行錯誤が必要と想定される。
施策の目的・内容・方向性・計画等	・SNS等を活用した広報について、持続可能かつ効果的・効率的な広報を目指して準備検討を進め導入する。
達成目標 (期待される効果)	・広報について、SNS等を活用し、発信を試行する。 (効果的・効率的な広報手段の追加・広報選択肢増)
備 考	

令和2年度重点施策評価書	
企画振興課 企画班	
自己評価	(目標に対する実績)
Ⓐ・B・C・D	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4月のシステム機器更新、インターネットホームページのリニューアルにあわせて、公式YouTubeチャンネルを開設し、図書館案内や講座、研修等当館の専門性を生かした動画を計45本、配信した。</li> <li>・必要な規程等を整え、7月に公式Twitterの運用を開始した。約300件の記事を配信し、約300人のフォロワーを獲得した。</li> </ul>
	(今後の方向性・分析等)
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公式Twitterは、スマートフォン世代に向けて、より細やかで迅速な情報を、画像等を中心に、直感的でわかりやすく提供していく必要がある。</li> <li>・公式YouTubeチャンネルについては、広報のみならず研修や講座など多くの有用な使い方があるが、編集の作業負担が集中してしまうため、各担当部門で容易に作業できるように進めていく必要があると</li> <li>ともに、検索等を通じて新たな層へのアピールに繋がる効果も期待できる。</li> <li>・コロナ時代にこれらの独自チャンネルを持ち、活用していくことは、県民サービスの向上に大いに効果的であることから、今後も積極的に活用を推進していきたい。</li> </ul>
外部評価	(御意見等)
A・B・C・D	

令和2年度重点施策調書	
(企画振興)課(振興)班	
中期計画の位置付け	2-1 市町立図書館とのネットワークをさらに充実させます
館の重点取組	(5) 県内図書館のさらなる活性化への寄与 ・市町立図書館の課題解決を支援する要請訪問を実施するとともに、市町立図書館への情報提供の充実を図ります。
参考：事業体系の位置付け	市町立図書館運営の援助
重点施策・事業名	<b>市町立図書館への情報発信</b>
現状・課題	・市町立図書館の職員は、他館の情報を得る手段が限られている。 ・新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、協力車訪問が長期に亘り中止となる可能性が高い。対面機会が減少することから、市町立図書館職員が県立職員へ気軽に相談しやすい関係を構築することが難しくなることが想定される
施策の目的・内容・方向性・計画等	・各館の臨時休館等の状況を、おうだんくんを通じて発信する。 ・協力車訪問を中止した月は、各館1回ずつ市町立図書館中央館に電話をかけ、各館の状況について確認するとともに、運営相談や必要な支援について聞き取りを行う。 ・地域館・分館訪問が中止となった場合は、当該館に電話で運営相談を行う。
達成目標 (期待される効果)	・臨時休館や優れた取組等の情報発信 50回以上 ・運営相談件数 150件以上 (優れた実績を活用することによる、各市町立図書館の利用者満足度の向上)
備考	・協力車訪問における情報提供や、聞き取り調査結果の提供は、継続して実施する。

令和2年度重点施策評価書	
企画振興課振興班	
自己評価	(目標に対する実績)
Ⓐ・B・C・D	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市町立図書館を訪問した際、コロナ拡大防止対策やイベント等の再開に関する情報を、協力車訪問や各館のWebチェックを通じて積極的に収集・伝達した。(1月末現在：運営相談292件、聞き取り調査に変えたWebアンケートを4回、おうだんくんを通じた情報発信を116件行った。)</li> <li>・令和2年2月末から臨時休館やサービス制限の動きが広がったため、3月から5月中旬までは週2～3回、市町立図書館の情報を収集しおうだんくんシステムを通じて発信した。市町立図書館からは、県立に問合せをしなくても県内の情報が入手できると、大変好評だった。全館が臨時休館を終えた6月からは、月1回程度の更新に切り替えるとともに、国や県からの最新情報の提供に努めている。</li> </ul>
	(今後の方向性・分析等)
外部評価	(御意見等)
A・B・C・D	

令和2年度重点施策調書	
(資料)課(図書)班	
中期計画の位置付け	1 県立図書館ならではの資料とサービスを通じて、すべての県民の「知る」「学ぶ」を支えます
館の重点取組	(8) えほんのひろばの本館移転による児童コーナー(仮称)開設
参考:事業体系の位置付け	資料の利用促進
重点施策・事業名	<b>えほんのひろばの本館移転による児童コーナー(仮称)の計画的開設と利用促進</b>
現状・課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・9月からグランシップが改修工事のため休館することに伴い、えほんのひろばを本館に移転する。</li> <li>・本館で児童コーナー(仮称)としてサービスを開始する。</li> </ul>
施策の目的・内容・方向性・計画等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・10月1日オープンに向けて、円滑に準備、移行ができるよう進める。</li> <li>・開設までのスケジュール</li> <li>・5月3日(日)「子どもコーナー」プレオープンから、日曜日午後のみ開室</li> <li>・9月8日～31日 えほんのひろばから移設</li> </ul>
達成目標(期待される効果)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新館に向け、児童サービスの基礎作りができる。</li> <li>・児童サービスを実施していく上での課題を把握することができる。</li> </ul>
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子ども図書研究室資料の利用拡大・認知度向上へも繋げたい。</li> </ul>

令和2年度重点施策評価書	
資料課 図書班	
自己評価	<p>(目標に対する実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもコーナー「どんぐりひろば」を10月1日から本館にオープンした。(5月3日プレオープン)配架資料は、読みもの約2,000冊、絵本約5,000冊に知識の本約1,000冊を加え、現在約8,000冊となっている。</li> <li>・5月～12月までの入室人数は2,340人で、グランシップからの移転後徐々に利用が定着してきた。</li> <li>・児童資料月間貸出冊数については、10月は昨年度の「えほんのひろば」を200冊程下回ったが、11月からは同程度上回っている。</li> </ul>
Ⓐ・B・C・D	<p>(今後の方向性・分析等)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童サービスが本館で実施できるようになったことで、当館全体の施設面、閲覧室の運用面、職員の意識面等で変化を求められることとなった。</li> <li>・おはなしかいは「えほんのひろば」と同様の日程で行った。コロナの影響で参加人数は多くなかったが、繰り返し参加される方も見られた。(11月24日から中止中)今後は感染防止対策をしながら実施する方法を検討する必要がある。</li> <li>・子どもコーナーの広報については、コロナの状況を考慮しながらも、積極的に行っていきたい。</li> <li>・子ども図書研究室との連携は、次年度以降の課題である。</li> </ul>
外部評価	(御意見等)
A・B・C・D	

令和2年度重点施策調書	
(資料) 課 (新聞雑誌) 班	
中期計画の位置付け	3 資料と情報を県民の財産として収集・活用し、未来へつなげます
館の重点取組	10 資料保存と資料管理
参考：事業体系の位置付け	新聞、雑誌等の逐次刊行物の収集、整備
重点施策・事業名	<b>所蔵資料の適切な管理・保存</b>
現状・課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・書庫4内雑誌の別置</li> <li>・複本雑誌の未整理</li> <li>・大学紀要の見直しと廃棄</li> <li>・寄贈雑誌（静岡市他）の未整理</li> </ul>
施策の目的・内容・方向性・計画等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・書庫4内雑誌の点検移動を進め（他の書庫への移動も検討）、別置の解消及び表示の再整理を実施</li> <li>・複本雑誌の確認を進め、廃棄を実施</li> <li>・大学紀要リポジトリの確認を進め、リポジトリ済雑誌の廃棄を実施</li> <li>・寄贈雑誌の整理及び登録を実施</li> </ul>
達成目標 (期待される効果)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・書庫出納の省力化</li> <li>・未整理の寄贈雑誌の減</li> </ul>
備考	

令和2年度重点施策評価書	
資料課 新聞雑誌班	
自己評価	<p>(目標に対する実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・書庫4から一部のタイトルを書庫10に移動し、点検移動を進めているが、別置の解消には至っていない。</li> <li>・複本及び大学機関リポジトリの確認を進め、リポジトリへの掲載が確認できた雑誌を廃棄した。</li> <li>・静岡市から寄贈された雑誌の登録が完了した。</li> </ul>
Ⓐ・B・C・D	<p>(今後の方向性・分析等)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・書庫4内の狭隘化は喫緊の課題であるため、他の書庫への移動も含めた対策を立てる。</li> <li>・スペース確保のための整理を進めることにより、床置きや別置の解消に努める。</li> </ul>
外部評価	(御意見等)
A・B・C・D	

令和2年度重点施策調書	
(調査)課 (一般調査)班	
中期計画の位置付け	2 県内図書館サービスの充実のため、県域すべての図書館をつなぎ、支援します
館の重点取組	(6)レファレンス・課題解決支援サービスの充実
参考：事業体系の位置付け	市町立図書館への支援／関係機関・団体との連携・協力
重点施策・事業名	<b>県民、県内図書館職員、教職員等に向けたレファレンス研修・課題解決支援サービスの充実</b>
現状・課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県内図書館職員を対象に基礎研修、応用研修、出前研修を、静岡県視覚障害者情報センターと連携して音訳点訳講座を、利用者を対象にオンラインDB講座を行っている。</li> <li>・県内図書館職員を対象にした研修では、図書館職員が置かれている状況や課題、図書館職員のニーズ等を把握したうえで、研修内容を絶えず更新していくことが求められる。</li> <li>・研修を担当する当館職員の指導力、発信力の向上。</li> <li>・県立図書館が課題解決支援に役立つ機関であることが県民に知られていない。</li> </ul>
施策の目的・内容・方向性・計画等	<p>(1) 研修の充実 昨年度の参加者アンケートの結果等を踏まえ、研修の内容を更新し、充実させる。出前研修については当館で用意した研修メニューを基本とするが、依頼館の要望にもできるだけ対応する。</p> <p>(2) 昨年度に引き続き、総合教育センターでの教職員を対象とした研修として、著作権講座及びインターネットを利用した情報検索講座等を実施する。</p> <p>(3) 研修を実施する職員の資質の向上 積極的に研修に参加し、新しい情報や技術、知識の習得に努める。</p>
達成目標 (期待される効果)	<p>(1) 県内図書館職員等のレファレンス技術の向上 (研修受講者アンケートの理解度及び有益度5段階の3.5以上)</p> <p>(2) 図書館の課題解決支援の認知度の向上 (レファレンス件数及びオンラインデータベースの利用件数の増加)</p>
備考	

令和2年度重点施策評価書	
調査課 一般調査班	
自己評価	<p>(目標に対する実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県内図書館職員等のレファレンス技術の向上 本年度は、基礎研修および応用研修の全て動画配信となったが、アンケート結果は有益度は平均すると5段階中4.7程度であった。理解度も平均4.1以上であった。 出前研修は11月～2月に5館で実施し、その内1館はオンラインで実施した。またコロナのため、2館は中止となった。</li> <li>・図書館の課題解決支援の認知度の向上 本年度はコロナのため、教職員を対象とした研修は中止となった。 レファレンス件数5,230(書誌2,956/所蔵2,274)であり、今年度の件数を過去2年と比較すると増加した。DBの利用回数は、9月に複写枚数の制限を無くした後の期間は、昨年度に比べ増加した。</li> </ul>
外部評価	<p>(今後の方向性・分析等)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研修の充実 レファレンス研修(基礎・応用)については基本的な流れは踏襲しつつ、本年度作成した動画配信等も、アンケートを参考に研修の流れを見直し、内容を更新する。</li> <li>・総合教育センターでの教職員を対象とした研修は、図書館と学校をつなげる機会でも有り、今後も継続して行っていきたい。</li> <li>・上記の研修を実施するためには職員の資質の向上が必須である。積極的に研修に参加し、新しい情報や技術、知識の習得に努めていきたい。</li> </ul>
備考	(御意見等)
達成目標 (期待される効果)	A・B・C・D
自己評価	Ⓐ・B・C・D

令和2年度重点施策調書	
(調査)課(地域調査)班	
中期計画の位置付け	3 資料と情報を県民の財産として収集・活用し、未来へつなげます
館の重点取組	(7) 地域資料等の充実とデジタル化
参考：事業体系の位置付け	資料の整備充実：図書資料の充実：地域資料の収集、整備 市町立図書館への支援：市町立図書館運営の支援・協力：地域資料・雑誌の書誌情報提供
重点施策・事業名	<b>地域資料の収集と発信</b>
現状・課題	現状：行政資料および県内各機関刊行物の収集、県内各関係資料の収集を能動的に行っている。 課題：行政資料や各機関刊行物は、紙媒体ではなくPDFなどの資料が増えてきているため、その収集方法の検討や登録、発信の方法が課題である。
施策の目的・内容・方向性・計画等	<ul style="list-style-type: none"> <li>県民の多種多様な興味・関心に応える地域資料の充実を図るために、収集体制の強化と方法(基準)の検討を行う。</li> <li>収集した地域資料の利活用の促進のために、地域に関する貴重資料、スライド、カセットテープ等のデジタル化を行う。また、「静岡県内住宅地図」や「静岡県内地形図」の二次資料の改訂を行う。また、地域特集展示の棚を活用して、地域資料のPRを進める。</li> <li>県内の刊行物が効率的に集まるシステムの構築(寄贈依頼方法やPR方法、納本制度など)について継続して検討する。</li> <li>県及び市町のWebサイトでPDFにより公開されている行政資料の、より効果的な収集方法、登録方法について検討する。</li> </ul>
達成目標(期待される効果)	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域資料の受入数の増加</li> <li>地域資料・貴重資料の修理保全・デジタル化による地域資料の永年保存化</li> <li>二次資料の作成、展示等の工夫による地域資料の活用の増加</li> </ul>
備考	

令和2年度重点施策評価書	
調査課 地域調査班	
自己評価	(目標に対する実績) <ul style="list-style-type: none"> <li>コロナのため出版点数が減少している中、古書等の選書を積極的に行い、本年度の受入数は、昨年度受入数を若干下回る約2,500件となった。また、3年ぶりに地形図の更新を行った。</li> <li>静岡書店大賞等、県内団体等の主催する文学賞や出版に関する賞の受賞作品等について検討し、来年度より収集を開始することとした。</li> <li>デジタルアーカイブに221件を登録した。</li> <li>VHS、カセットテープ、スライド等145件の媒体変換を行った。</li> <li>地形図の更新に伴い、「地形図目録」と「住宅地図目録」を3年ぶりに更新し、利用者が自由に利用できるよう閲覧室に配架するとともに、カウンターにも配架し、レファレンスサービスに活用した。</li> <li>県及び市町のWebサイトで公開されている行政資料の収集方法を検討しつつ、職員の手作業での収集及び登録を継続した。</li> </ul>
①・B・C・D	<ul style="list-style-type: none"> <li>※受入数、登録数等は3月見込みを含む。</li> <li>(今後の方向性・分析等)</li> <li>県民の多種多様な興味、関心に応えるために引き続き地域資料の情報収集と資料収集に力を入れていく。</li> <li>旧県史及び編纂資料のデジタル化並びに修繕と併せ、特別取扱資料以外の地域資料についても自館でのデジタル化を継続して行い、直接来館できない方への活用にも寄与していく。</li> <li>利用者層の拡大を図るためにも学校図書館と連携、二次資料の利用等を検討していく。</li> <li>Web上の行政資料の効率的な収集方法について、今後も検討していく。</li> </ul>
外部評価	(御意見等)
A・B・C・D	

令和2年度重点施策調書	
(調査) 課 (歴史文化情報センター)	
中期計画の位置付け	3 資料と情報を県民の財産として収集・活用し、未来へつなげます。 3-3 資料・情報にアクセスできる環境
館の重点取組	(13) 県史編さん収集資料の整理及び公開
参考：事業体系の位置付け	県史編さん収集資料の公開、情報発信
重点施策・事業名	<b>県史編さん収集資料の公開・広報・普及</b>
現状・課題	<p>《現状》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 県史編さん収集資料(写真資料)の公開準備</li> <li>・ 近代資料の整理</li> <li>・ 管理システム(データベース)への登録</li> </ul> <p>《課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 資料所蔵者情報の確認が困難である。</li> <li>・ 目録作成や「資料紹介」に利用する資料の解説など、資料の広報に多くの時間を要する。</li> <li>・ 資料利用の手続きが煩雑のため、利用を諦める利用者もいる。</li> </ul>
施策の目的・内容・方向性・計画等	<p>《方向性》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 写真資料や文書資料の公開により利用者からの問い合わせが増加しており、主に自然災害誌に掲載した写真資料と布達(明治初期の行政命令)の公開申請を行う。</li> <li>・ 資料の利用手続きを簡略化する。 (例) 申請は歴史文化情報センターが承諾し、事後に資料の利用を報告する文書を発送する。</li> </ul>
達成目標(期待される効果)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 資料の公開により、資料の閲覧・利用が増加する。</li> <li>・ センター内公開及びインターネット公開資料 100点、資料の利用件数 250件。</li> </ul>
備考	

令和2年度重点施策評価書	
調査課地域調査班歴史文化情報センター	
自己評価	(目標に対する実績)
A・B・C・D	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ センター内及びインターネット公開資料は 306 点で、目標の 100 点を大幅に上回った。</li> <li>・ 資料の利用件数は 136 件で、目標の半数程度という結果になった。</li> <li>・ 資料の利用を促すため、利用時に資料所蔵者の事前承諾を要する従来の方法を簡素化する提案(当センターに承諾を一任する)を一部の資料所蔵者を対象に行ったが、回答は提案に賛成する意見と従来通りでよいとの意見が半々だった。</li> </ul>
	(今後の方向性・分析等)
A・B・C・D	<p>【方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 布達資料は順調に公開できているため、目録作成と公開申請の業務を継続する。</li> <li>・ システム登録できていない『静岡県史』の情報を登録する。</li> <li>・ 寄贈資料または当センター保管資料を利用した情報発信(授業の種や歴史散歩など)を進めていく。</li> </ul> <p>【分析】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 利用件数は目標の半数であった。利用件数が減少したのは、コロナのため例年より来室者が減り、センター内での資料閲覧・複写が減ったことが要因である。</li> <li>・ 利用者から「インターネットで閲覧できる資料を増やしてほしい(カラー)」という要望があった。可能な範囲で公開資料を増やしていく。</li> </ul>
	外部評価
A・B・C・D	

【参考】静岡県立中央図書館及び県内公立図書館に関する数値指標

項目	単位	平成 30年度	令和 元年度	令和 2年度 〔12月末 現在〕	備考	担当課
<b>【本館・えほんのひろば】</b>						
開館日数	日	304 (310)	308 (304)	222 (202)	( )はえほんのひろば ※10月からどんぐりひろば	資料
入館者数	人	134,199	167,292	90,139		資料
新規登録者	人	1,305	1,857	1,320		資料
貸出人数	人	12,156	20,681	15,499		資料
個人貸出数	点	62,755	108,342	88,948		資料
うち遠隔地貸出数	点	6,776	8,043	6,033		企振
協力貸出数	点	6,005	6,871	5,850		資料
レファレンス数	件	4,906	4,181	5,230		調査
うち静岡県関係	件	1,603	1,113	1,454		調査
うち図書館から	件	58	31	58		調査
図書資料数	点	855,779	872,562	—	年度単位集計	資料
うち地域資料数	点	143,771	146,904	—	年度単位集計	資料
視聴覚資料数	点	14,947	14,533	—	電子・マイクロ含む	資料
逐次刊行物タイトル数	点	9,763	9,811	9,820		資料
オンラインDB利用数	回	2,319	1,407	1,339	ログイン数	調査
公立図書館職員研修受講者数	人	648	575	588	関プロ研修含む	企振
ウェブサイトアクセス数	千件	9,783	8,718	9,267		企振
来館者アンケート満足度	%	(未実施)	91.0%	2月実施	項目平均	企振
<b>【歴史文化情報センター】</b>						
入室者数	人	414	201	137		歴文
資料利用件数	件	440	200	136	複写及び資料出納の 申請者を件数で計算	歴文
資料掲載等許可件数	件	53	40	31	資料掲載申請者を件 数で計算	歴文
レファレンス件数	件	275	195	155		歴文
<b>【県内公立図書館】</b>						
登録者数	千人	1,830	1,839	—	年度単位集計	企振
蔵書冊数	千冊	14,434	14,754	—	年度単位集計	企振